

2012年10月31日

調査レポート

2012年7～9月期のGDP(1次速報)予測

11月12日に公表予定の2012年7～9月期の実質GDP成長率は、前期比 - 0.7% (年率換算 - 2.9%) と4四半期ぶりにマイナスとなったと見込まれる。東日本大震災を受けて落ち込んだ実質GDPは、復旧・復興の動きに合わせて順調に回復してきたが、その動きがいったん途絶えた可能性が高い。

マイナス成長の最大の原因は輸出の大幅な落ち込みである。この結果、輸入が小幅の減少にとどまったこともあって、外需寄与度は大幅なマイナス寄与となった。内需では、公共投資、政府消費の官公需が増加基調を維持しているものの、個人消費、設備投資がともに前期マイナスに転じるなど民需の弱さが目立つ。

名目GDPは前期比 - 0.4% (年率換算 - 1.4%) と2四半期連続で減少したと予想される。また、輸入物価の下落幅が拡大したことや国内物価の下落ペースがやや和らいだことなどをを受けて、GDPデフレーターは前年同期比 - 0.5% と下落率が縮小したと見込まれる。

				前期比 (%)		
	4-6	7-9	10-12	2012年		
				1-3	4-6	7-9
実質GDP	- 0.3	1.7	0.1	1.3	0.2	- 0.7
同 (年率)	- 1.3	6.9	0.3	5.3	0.7	- 2.9
同 (前年同期比)	- 1.8	- 0.6	- 0.7	2.9	3.2	0.8
内需寄与度 (*)	0.6	1.0	0.8	1.2	0.2	- 0.1
個人消費	0.6	1.1	0.7	1.2	0.1	- 0.3
住宅投資	- 3.0	4.8	0.1	- 1.6	0.9	1.1
設備投資	- 0.9	0.3	5.5	- 1.6	1.4	- 2.5
民間在庫 (*)	0.0	0.2	- 0.4	0.3	- 0.2	0.1
政府最終消費	0.6	0.2	0.4	1.1	0.2	0.2
公共投資	7.4	- 1.1	- 1.0	3.6	1.8	5.7
外需寄与度 (*)	- 0.9	0.6	- 0.7	0.1	- 0.1	- 0.7
輸出	- 5.8	7.8	- 3.6	3.4	1.2	- 4.6
輸入	0.0	3.4	1.0	2.2	1.6	- 0.2
名目GDP	- 1.3	1.6	- 0.3	1.3	- 0.3	- 0.4
同 (年率)	- 5.1	6.4	- 1.1	5.5	- 1.0	- 1.4
同 (前年同期比)	- 4.1	- 2.7	- 2.4	1.5	2.2	0.3
GDPデフレーター (前年同期比)	- 2.4	- 2.1	- 1.8	- 1.3	- 0.9	- 0.5

(注) 内需寄与度、民間在庫、外需寄与度は実質GDPに対する寄与度

(出所) 内閣府「四半期別GDP速報」

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 小林 真一郎 (chosa-report@murc.jp)

〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2

TEL: 03-6733-1070

需要項目別の動向は以下の通りである。

個人消費（前期比実質 - 0.3%）

自動車販売は、エコカー補助金の終了前の駆け込み需要が弱かったことに加え、9月の終了後に急減しており、7～9月期は個人消費を押し下げる要因となったと見込まれる。また、夏のバーゲンセールの不振や7月の天候不良などもあって、個人消費は6四半期ぶりに減少したと予想される。

住宅投資（前期比実質 + 1.1%）

このところ住宅着工件数が緩やかな増加基調にあることを反映して、2四半期連続で増加したとみられる。

設備投資（前期比実質 - 2.5%）

資本財（除く輸送機械）の出荷が急減していることなどから判断すると、前期比で減少に転じた可能性が高い。これまで押し上げ要因となってきた復興のための投資が一巡してきた可能性があるほか、景気の先行き不透明感が強まる中で、企業の設備投資マインドが慎重さを増していると考えられる。

在庫投資（前期比実質寄与度 + 0.1%）

一部の業種で積み上がりがみられるが、在庫は全体として調整局面にある。在庫投資のGDP成長率に対する寄与度は小幅なプラスになったと見込まれる。

政府最終消費支出（前期比実質 + 0.2%）

医療費などを中心に政府サービスに対する需要は増加基調にあり、引き続き前期比で増加した可能性が高い。

公共投資（前期比実質 + 5.7%）

被災地を中心に復興関連の補正予算の執行が本格化していることを受けて、増加ペースが高まったと見込まれる。

外需（前期比実質寄与度 - 0.7%、輸出：前期比実質 - 4.6%、輸入：同 - 0.2%）

発電用エネルギーの輸入量の増加が一巡していることなどから、輸入はほぼ前期並みの水準となった。一方、海外景気の減速を受けて輸出は大きく落ち込んだと見込まれる。この結果、外需のGDP成長率に対する寄与度は - 0.7%と大きめのマイナスになったと予想される。

GDPデフレーター（前年同期比 - 0.5%）

輸入物価が下落に転じたことや、このところ国内物価の下落ペースがやや和らいだことなどを受けて、GDPデフレーターの下落率は縮小したとみられる。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。当社までご連絡下さい。